

子どもの本と文化を、  
子どもの未来のために

# 財団法人 大阪国際児童文学館

INTERNATIONAL INSTITUTE for CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

No.02  
2012.8



# REPORT

編集・発行／財団法人大阪国際児童文学館  
〒577-0011  
東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL 06(6744)0581 FAX 06(6744)0582

<http://www.iiclo.or.jp/>

## 「二年目を振り返って」

理事長 三宅興子

新しい体制になって二年目を無事乗り切ることができましたことを、関係者のみなさまに感謝申し上げます。相変わらず、長期的な見通しは立たない状況が続いていますが、元気に多くの事業をこなし、また、収支決算の報告も無事すませました(財団HPでごらんください)。

二〇一一年度の新しい動きでは、新公益法人制度に沿って来年四月から「一般財団法人」へ移行するための準備に入ったことがあげられます。あわせて、組織名称の変更も検討しています。設立以来の経緯があるとはいえ、府の施設である「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」と、私どもの「財団法人 大阪国際児童文学館」という名称が、よく似ていることから混同されやすくなっています。

奇数年は、グリム賞の授賞年に当たり、十三人目の受賞者として、日本以外ではアジアで初めて中国の蔣風先生が受賞されました。蔣風先生は、中国の児童文学事典の編纂や概論、文学史など多くの著作を出版されており、一九九三年に半年間、万博にあった大阪府立国際児童文学館の客員研究員として過ごされました。

帰国後、長年、教えてこられた浙江師範大学に、児童文学館と似た機能を持つ児童文化研究所を開設されて、多くの研究者、作家を育成してこられました。それほど遠くない将来、蔣風先生の薫陶を受けた教え子の方

が受賞者になられるといった夢想が浮かんできます。大手前高校同窓会・金蘭会さまとの共催によるこのユニークな賞を、今後とも未永く継続していけますことを願っています。

二〇一一年度は、当財団の特別顧問で、長年、理事長として、また館長として活躍いただきました中川正文先生が、十月十三日、九十歳で逝去された年でもあります。先生の児童文学や絵本の作家、児童文化の研究や評論、人形劇などの創作や実践、多くの研究者や作家の育成、宗教関係の著述や講話など、実に幅広い活躍の功績は申すまでもありません。財団にとりましても、先生が残してくださった足跡は大きく、その豊富な人脈による多様な方々との交流や夢の池劇場での公演なども含めた様々のご業績を、今後、丹念に顕彰させていただくつもりでおります。まずは、ご寄贈いただきました蔵書の整理をして、著作リスト作りから取り掛かっています。

財団の独自事業として、出版計画を実現させて、編集委員会を立ち上げた年にもなりました。二〇一一年度は、三年間の移行期間が終了する年になります。財団の持つ「研究力」や「子どもの本についての総合的な専門知識」に裏付けられた独自事業を行って、児童文学・児童文化の振興に、ますます、寄与できればと考えています。



## 第13回国際グリム賞 中国の蔣風氏が受賞

国際グリム賞は、財団法人金蘭会および大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会との共催で、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。第13回の23年度は、中国・浙江師範大学名誉教授の蔣風氏が受賞され、授賞式と受賞記念講演会を行いました。

- 日時：平成23年12月11日(日)
- 場所：大阪国際交流センター
- 受賞者：蔣風(中国)
- 演題：明日の夢に向かって  
中国児童文学の過去・現在・未来
- 参加者：102人

### 〈授賞理由〉

蔣風氏は、中国における児童文学研究の基盤を作り、児童文学研究の発展と向上に多大な貢献をされてきました。同時に、アジア地域の児童文学研究の中心的存在として幅広く活躍されています。

氏は1952年から浙江師範大学で教鞭をとり、児童文学研究のパイオニアとして研究を始めるとともに、児童文学研究者の育成にも力を注ぎました。

著書も数多く、『児童文学概論』(1982)、『中国児童文学発展史』(2007)、『世界児童文学事典』(1992)等があります。

さらに、第10回アジア児童文学大会(2010年)の浙江師範大学での開催に大きな役割を果たすとともに、日中児童文学シンポジウム(1985年)など国際的な大会を通じて、中国の児童文学を積極的に国外へ発信して来られました。

### 〈講演の概要〉

中国児童文学の歴史と展望を簡潔にまとめられました。

起源を子守唄が歌われた時期に求めつつ、19世紀末頃を「目覚め」期と位置づけ、1919年の「五四」文化運動で、新しい思潮があらわれ、子どもを一人の人間として認める児童観によって、児童文学作家が現れました。この時期は、魯迅や周作人の子どもの理解が力を発揮しました。

改革開放(1978年)がなされ、「現在」がはじまります。戯文や曹文軒が活躍し、80年代から90年代にかけて作家は啓蒙主義的な立場から芸術性の高い作品を目指すようになってきました。

伝統文化への着目や少数民族と自然との共存をみつめた中国らしい作品が出てきていることを評価し、中国らしい特徴のあるファンタジーの創作への期待を述べられました。

講演の後は、成實朋子さん、三宅興子理事長を聞き手に「蔣風先生に聞く中国児童文学」を行いました。



左：金蘭会 安橋興二郎氏 右：蔣風氏

今、世界中で注目されている  
オーストラリアの絵本作家  
シヨーン・タン氏来日!

「ことばを超えて」  
— 絵が語る物語の力 —

絵本作家シヨーン・タンさんに、  
いかにして絵本作家になり、これ  
までにどんな作品を作ってきたの  
かについて、画像を紹介しながら  
お話しいただきました。また、短  
編アニメーションも上映しました。  
日 時：平成23年10月15日（土）  
場 所：大阪府立中央図書館  
大会議室

講 師：シヨーン・タン  
（オーストラリア）  
参加者：85人



○報告集を販売しています。  
800円  
\*後 援：大阪府子ども文庫連絡会  
\*子どもゆめ基金助成事業  
\*本事業は、左記の各社からご支  
援をいただきました。  
関西電力株式会社  
近畿日本鉄道株式会社  
サントリーホールディングス株式会社  
パナソニック株式会社  
株式会社富士通システムズ・イースト  
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

のりものだいすき  
おはなしだいすき



貸切モノ  
レールの中で  
おはなしを楽  
しみ、彩都西の  
会場で人形劇  
を観る「おはな  
しモノレール」  
を実施しまし  
た。平成23年度  
で5回目とな  
ります。

日 時：11月6日（日）  
定 員：240人  
出 演 職員、おはなしポップ、  
人形劇サークルぱれっと等  
協 賛：大阪高速鉄道株式会社、  
独立行政法人日本万国  
博覧会記念機構、阪急  
不動産株式会社

ニッサン童話と  
絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創  
作童話と絵本のコンクール「第28  
回ニッサン童話と絵本のグランプリ」  
を実施しました。審査の結果、  
入賞作品36編を決定しました。  
○応募数 童話の部2052点、  
絵本の部398点 計2450点  
○童話の部 大賞  
「くつたら道のお師匠さん」  
瀧下映子さん  
絵本の部 大賞  
「ぴちとりた まよなかのサーカス」  
長尾琢磨さん

○表彰式 平成24年3月4日（日）  
日産グローバル本社日産ホール  
協 賛：日産自動車株式会社  
※絵本審査員に今回から新たに篠  
崎三朗氏に加わっていただきました。

オーストラリアの絵本作家  
シヨーン・タン氏と絵本をつくりました!



参加者：小学生26人  
大人32人  
\*子どもゆめ基金助成事業  
最初に、シヨーン・タンさんか  
ら、自作の紹  
介、絵本づく  
りの秘密を  
語ってもら  
い、次に、参  
加者は、身近  
なものを二つ



その生き物  
が登場する  
物語を考  
え、絵本を創作しました。  
シヨーン・タンさんは、子どもた  
ちの制作過程において的確か  
つ、あたたかい助言をしてくだ  
さいました。

日 時：平成23年10月16日（日）  
場 所：大阪府立中央図書館  
大会議室  
参加者：小学生26人  
大人32人

以上合体さ  
せて、不  
思議な生き物  
を創造しま  
した。  
そして、

また、第27回童話の部優秀賞一席  
および絵本大賞作品をB1出版か  
ら平成23年12月に出版しました。  
童話の部「あやとユキ」  
いながきふさこ/作  
青井芳美/絵



絵本の部「うみのそこのてんし」  
松宮敬治/作



論文集「国際児童文学館紀要」  
25号の発行

今号も、国際児童文学館の資料  
を活用した研究論文を公募しまし  
た。4名の応募があり、論文2本、  
研究ノート1本を採用しました。

- 〔目次〕  
二宮金次郎と「負薪読書」 図一近  
代日本における「模範的人物」像  
の形 柿本 真代  
雑誌「少年」(時事新報社)細目(四)  
遠藤 純  
伝承童謡ニラメッコの表現と歴史  
高山 林太郎  
『日本之少年』における小説観の  
アクチュアリティ 目黒 強  
〈研究ノート〉  
幼年絵雑誌の編集者森田但山と出版  
に関わった人々―『但山畫譜』掲載

高橋五山の手記を手がかりに―  
高橋 洋子  
〈国際グリム賞受賞記念講演録〉  
明日の夢に向かって―中国児童文  
学の過去・現在・未来―  
蔣 風

\*日本語版翻訳・訳注は浅野法子  
〈報告〉  
明治・大正・昭和前期における児  
童出版文化史の研究―元博文館編  
集者の書簡調査から―  
土居 安子

○本事業は、児童文学を愛された  
北村武子さんのご遺志により当  
財団にいただいた多大な寄付金  
を基にした「北村武子記念児童  
文学振興基金」の対象事業です。

ほんナビきつず  
子どもの本をあらすじ・  
キーワードから探す

「ほんナビきつず」はインター  
ネットで楽しく遊びながら、こと  
ばや感情を選ぶことによってお気  
に入りの本に出会うシステムです。  
長新太さんの人気キャラクタ―、  
キャベツくんやブタヤマさんが登  
場するゲームで遊ぶだけでなく、  
キーワードを選んだり、入力した  
りして本を探すことができます。

キーワード、あらすじは当財団  
で独自に作成。23年度は813冊  
の本を追加しました。財団HPか  
らアクセスできます。  
共同開発：  
株式会社富士通システムズ・イ  
ースト





## 子どもに本を 手渡す人のために

### 講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもの本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のあり方に関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、主任専門員、特別専門員を派遣しました。

・実施回数：63回  
 (子どもの読書推進活動支援員派遣24回を含む)

### 審査員・委員など

左記の事業に、審査員や委員として参加しました。

- ・第21回賞面手づくり紙芝居コンクール審査員(箕面市教育委員会・人と本を紡ぐ会)
- ・平成23年度「心の輪を広げる体験作文」審査(大阪府)
- ・第14回「と」とはと絵本原作コンクール選考委員会(大阪市教育委員会)
- ・第30回人権啓発詩・読書感想文審査委員会(大阪府・大阪府教育委員会・人権啓発推進大阪協議会)
- ・メディア芸術デジタルアーカイブ事業検討委員会(文化庁)
- ・JBBY賞選考会
- ・第7回大阪こども「本の帯創作コンクール」(大阪読書推進会・朝日新聞)

## 子どもたちに

### おはなしの楽しさを

### 昔の絵本・紙芝居に触れるイベント

「むかしのかみしばい 子どもの本をたいけんしよう!!」



大正期の絵本や1950年代に楽しめた街頭紙芝居を観た後、絵本を読んだり、紙芝居を演じる活動を行いました。

日時：平成23年8月6日(土)  
 場所：大阪府立中央図書館 大会議室  
 出演：三邑会・職員  
 後援：大阪府立中央図書館・三邑会

### \*子どもゆめ基金助成事業

大阪府立中央図書館との連携  
 室でおはなし会6回、人形劇1回、物語体験ワークショップ1回を開催しました。



出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

### 大阪府立大型児童館「ビッグバン」のおはなし会とワークショップ

「田島征彦絵本原画展」の期間中に、関連イベントとして、おはなし会とワークショップを行いました。

・おはなし会4回  
 ・ワークショップ『じごくのそらべえ』(田島征彦/作 童心社)

の世界を楽しもう(平成23年9月23日(金・祝))

### 中学生との絵本作りワークショップ

「自分だけの絵本を作ってプレゼントしよう!」

日時：平成23年7月27日(水)、29日(金)  
 場所：大阪学院大学

### 森の絵本づくり

「森」をテーマにしたおはなし会を楽しみ、森を探検し、森の中でいろいろなもの拾って、子どもも大人も「森の絵本」をつくりました。「森ともだちになろう!」森の絵本づくり!」

日時：平成24年3月10日(土) 11日(日)

### 住宅展示場での街頭紙芝居

住宅展示場にきた家族に街頭紙芝居の楽しさを伝えました。

日時：平成23年5月8日(土)、9月24日(土) 各2回  
 場所：花博住宅展示場広場(大阪市鶴見区)

### 小学校や児童養護施設、図書館でのおはなし会やワークショップ

主催：財団法人大阪住宅センター  
 児童養護施設でのおはなし会(1回)  
 吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会(1回)  
 豊中市立東丘小学校等での小学生を対象とした、物語体験ワークショップ(5回)

### 中韓子ども童話交流2011

日本、中国、韓国の子どもたちと一緒に絵本づくりをしました。

日時：平成23年8月17日(土) 23日(日)

場所：中国・北京および上海

参加者：230名  
 主催：日中韓子ども童話交流事業実行委員会



### 「おはなしポップ」と「人形劇サークルぱれっと」の財団事業への参画

子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。また、「おはなしポップ」は、絵本やおはなしに関する研修を3回行いました。

## 子ども読書活動の推進のために

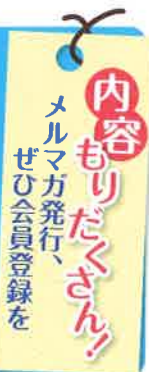
### 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会への参画

大阪府が推進する「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内の子ども読書活動推進のための協議会に参画し、会議に出席しました。(2回)

### 子どもの読書推進活動支援員派遣事業への協力

大阪府立中央図書館主催の支援員派遣事業に協力し、要請のあった機関・組織に対し、講師を派遣し講座を行いました。  
 ・実施回数：24回(全体69回)  
 ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等  
 ・対象：学校司書(4回)、図書

館司書(5回)、高校生(2回)、ボランティアグループ(13回)



平成22年9月からメルマガジンを発行しています。

発行は、月1回、毎月20日頃に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。平成24年6月末現在、登録数は835人です。内容例は左記のとおり。

#### 1 お知らせ

財団からのお知らせコーナー

#### 2 コラム

(1) YOO-この本読んだ?

理事長と専門職員が毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。

#### (2) 読書活動ボランティアのためのワンポイント

読書活動を行っているボランティアさんのための連続講座。絵本の選び方、読み方など、基本的なポイントを説明しています。

#### (3) サイト紹介

子どもの本をリサーチする  
 知らなげや損をする子どもの本の調査のためのさまざまなサイト紹介

#### (4) 行って来ました!

展覧会や映画、講演会など、子どもの文化に関わる催しのレポート

#### 3 全国のイベント紹介

他団体等が実施するイベントを紹介

#### 4 プレゼント

今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。

## 共同研究を行いました

●明治期児童雑誌研究プロジェクト  
『少年世界』などの明治時代に出版された児童向け雑誌について、平成20年度文部科学省科学研究費助成事業で作成した、明治時代の雑誌の内容細目データを活用しながら外部研究者とともに研究を行いました。

- ・研究会の開催（3回）
- ・『国際児童文学館紀要25号』掲載（論文1本）
- ・研究メンバー：酒井晶代（愛知淑徳大学教授）、畠山兆子（梅花女子大学教授）、藤本芳則（天谷大学短期大学教授）、向川幹雄（当財団特別顧問・兵庫教育大学名誉教授）、目黒強（神戸大学准教授）、遠藤純（当財団特別専門員）、小松聡子（当財団特別専門員）、土居安子（当財団主任専門員）

## 「明治・大正期における児童出版文化史」の研究

●「明治・大正期における児童出版文化史」の研究  
故・南部新一氏（元博文館編集者）旧蔵資料にある巖谷小波作品を中心に、調査研究を外部研究者とともに行いました。

- ・研究会の開催（5回）
- ・研究課題：明治・大正・昭和前期における児童出版文化史の研究
- ・『国際児童文学館紀要25号』掲載（報告1本）
- ・研究メンバー：浅岡靖央（日本児童教育専門学校専任講師）、伊藤元雄（ブックグループ社代表）、酒井晶代（愛知淑徳大学教授）、三宅興子（当財団理事長、遠藤純（当財団特別専門員）、小松聡子（当財団特別専門員）、土居安子（当財団主任専門員）
- \*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究（C）平成23年度

## 出版や展示の企画を行いました



貴重な資料の複製や作家選集、論文集など児童文学・児童文化に関わる各種出版事業の相談に応じています。

- 「ドモノクニ名作選Vol.3」(ハースト婦人画報社の企画協力)
- 「進研ゼミおすすめ本1000冊」ベネッセコーポレーションから受託し、小学1年生～中学3年生を対象に、推奨本の追加・変更48冊を選定し、子ども向け紹介文を作成しました。

## 資料を販売しています

### ●財団発行資料

- ・『2011年度国際交流事業報告集 オーストラリアの絵本の魅力 ショーン・タン自作を語る・オーストラリアの絵本作家ショーン・タンと絵本をつくる』 8000円
  - ・『2010年度国際交流事業報告集 アジアの絵本シンポジウム絵本は国境を越えるー中国語圏の絵本の現在ー』 5000円
  - ・『国際児童文学館紀要 1号～25号』 10000円～20000円
  - ・『台湾の絵本』 論文集・シンポジウム報告書 20000円
  - ・世界の絵本の現在・報告集
  - ・『タイの絵本』 20000円
  - ・『インドの絵本』 論文集 15000円
  - ・『中国の絵本』 論文集 20000円
- など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。

## 資料のご寄贈をありがとうございました

今年度も出版社、作家、研究者、同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料など、昨年度の約1.5倍を超える多くの寄贈をいただきました。いただいた資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。

- 「寄贈いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください」
- 図 書 4779冊
- 雑誌 3555冊
- その他資料 1021点
- 計 9355点

## ホームページを随時更新



ホームページのトップ画面は、当財団の活動が一目でわかるように、「お知らせ」や「活動報告」をタイムリーで紹介しています。その他、ホームページからは左記の内容にアクセスできます。

- ・「ほんナビぎっず」(随時更新)
- ・『日本の子どもの本100選』
- ・『本の海大冒険』
- ・『子どもの本いま・むかし』
- ・主催イベントの参加申し込み
- ・国内の児童文学・児童文化関連事業情報 など

## 寄付金募集のお願い!

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからの寄付を募っています。ご協力を願います。

◆ゆうちょ銀行振替口座に払い込みください。

●口座番号  
00910・8・282098

●加入者名  
財団法人 大阪国際児童文学館  
※他の金融機関からの振込の場合  
店名：〇九九店(ゼロキユキユウ店) / 店番：099 / 預金種目：当座 / 口座番号：0282098

◆平成23年度は、96件

1,195,800円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。(ご寄付いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください)

## 編集後記

「財団法人 大阪国際児童文学館レポート」第2号をお届けいたします。当レポートでは、平成23年度に実施しました主な事業を掲載しています。図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さま方のご支援・ご協力を深く感謝いたします。

理事会で承認された平成23年度事業報告および決算報告はホームページで公開しています。引き続き皆さま方のご支援をお願い申し上げますとともに、当財団の運営について、怠惰のないご意見をお願い申し上げます。

ご協力ありがとうございました!  
東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンを終了しました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、学校、幼稚園などの施設も壊滅的な被害を受け、子どもたちが読む本や絵本も失われました。そうした子どもたちに本を届けるため、広く一般の皆さまから寄付金をいただき、本の寄贈を希望される施設等の、対象となる子どもの人数・年齢・希望冊数などにあわせて、本を選び購入し、ブックカバーをつけて送付しました。

- 主催 財団法人 大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合 毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団
- 期間 平成23年4月26日～平成24年3月末
- 募金 1,562件 24,735,393円  
著者、出版社等からの図書現物寄付 10件 870冊
- 寄附施設 339件 保育園(所)、幼稚園、小中学校など
- 寄附冊数 19,036冊

